様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年　4 月　10 日現在

機関番号：34310
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010　～　2012
課題番号：22730547
研究課題名（和文）　児童の不安障害に対する家族認知行動療法

研究課題名（英文）　Family Cognitive Behavior Therapy for Children with Anxiety Disorders

研究代表者
石川　信一（ISHIKAWA SHIN-ICHI）
同志社大学・心理学部・准教授
研究者番号：90404392

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，不安障害の児童を対象に家族に焦点を当てた認知行動療法の効果を検討することであった。対象者は 12 名の不安障害の基準に合致した児童であった。親子認知行動療法では，児童と親は 10 セッションからなる集団認知行動療法プログラムに参加した。さらに，親のみを集めた４セッションも準備された。分析の結果，３ヶ月時点において，６名が主たる不安の基準から外れることが示された。また，臨床家評定と親評定の不安尺度においても改善がみられた。

研究成果の概要（英文）：This study evaluated family-based cognitive behavioral therapy for children with anxiety disorders. Twelve Japanese children who were diagnosed with an anxiety disorder and their parents participated in the Parent-Child Cognitive Behavior Therapy (CBT-PC) program. There were two active components for children and their parents. First, children and parents participated in the 10-session group CBT program for Japanese children. Second, parents participated in the four parental sessions. Three months following treatment, 6 children who participated in the CBT-PC programs no longer met criteria for their principal anxiety disorders. In addition, children showed significant improvement for the Clinical Significance Ratings and parent-reported anxiety.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：社会心理学
科研費の分科・細目：臨床心理学・心理療法
キーワード：認知行動療法・児童　・不安障害・家族

１．研究開始当初の背景

児童青年（主として 7～15 歳）の精神障害の中でも，不安障害は最も有病率の高い問題の１つであるとされ，近年注目が集まるようになってきた。例えば，児童青年の不安障害の有病率について，６ヶ月有病率では 9.1%～17.7%，生涯有病率では 12.7%～27.0%と報告されている（Costello et al., 2004）。児童青年の不安障害の症状（以下，不安症状とする）は，その時点において，主観的，社会的不適

応をもたらすばかりではなく，年齢に応じて問題の様相を変えながらも，成人期まで維持されることが多く，うつ病をはじめとしたさまざまな精神疾患のリスクとなるとされている（石川，2010）。そして，既に我が国の児童青年においても，欧米諸国に匹敵する程度の不安症状の報告がなされている（Ishikawa et al., 2009）。以上のことから，児童青年の不安障害に対する効果的な心理療法の開発と実践は，我が国における臨床心理学研究において重大な課題の一つである。

実証に基づく心理療法の基準において，児童青年の不安障害に対して有効性が実証されているのは認知行動療法（CBT）だけである（Silverman et al., 2008 参照）。そして，このレビ ュー論文に前後して発刊された研究によって，そのエビデンスはより強固なものとなっている（CAMS Study; Walkup et al., 2008）。その一方で，先行研究においては，親を含めた CBT の有効性については一貫した結果が得られていない。我が国においては，親から子どもへの不安症状の伝達において，欧米圏とは異なる特徴があることが示唆されているものの（Essau et al., 2011），我が国において親を対象とした CBT プログラムの実践は報告されていない

２．研究の目的

本研究では，子ども本人に対する CBT（Child Cognitive Behavior Therapy: CCBT）だけではなく，親への介入プログラムを組み合わせて実施する親子認知行動療法（Parent-Child Cognitive Behavior Therapy: CBT-PC）を開発し，その効果について検討することを目的とした。

３．研究の方法

(1) 募集手続きと対象者

本研究の実施においては，同志社大学「人を対象とする研究」倫理委員会の承認を得ている。

対象者の募集手続きは，地域のコミュニティ誌を通じて行われた。その結果，小学生 12 名（男子４名，女子８名；平均 9.58 ±1.11 歳）を対象とした。対象者の不安障害の内訳は，分離不安障害３名，社交不安障害 11 名，特定の恐怖９名，全般性不安障害５名であった（述べ人数）。12 名中９名（75.00%）が複数の不安障害を有していた。

(2) 認知行動療法プログラム

親子認知行動療法（以下，CBT-PC プログラム）は，先行研究（石川ら，2008）を参考に作成された。子ども用のプログラムは集団形式で実施された。全 10 セッションで構成されており，各セッションは 60～90 分で終了するよう作成されている。親は，子どものセッションを部屋の後ろで見学しており，終了後には感想カードへの記入が求められ，必要に応じてリーダーらが質問などを受けた。加えて，第４，５，７，９回の後には，親を対象としたプログラムが実施された。

(3) 効果指標

プログラム開始時点，終了時点，３ヶ月フォローアップ時点において，以下の半構造化面接，自己評定と親評定の尺度によるアセスメントが実施された。

①Anxiety Disorders Interview Schedule for DSM-IV（ADIS ; Silverman & Albano, 1996）
②Spence Children’s Anxiety Scale（SCAS; Spence, 1998）
③Depression Self-Rating Scale for Children（DSRS；Birleson, 1981）
④Children’s Depression Inventory（CDI；Kovacs, 1985）
⑤Parent version of the Spence Children’s Anxiety Scale（SCAS-P; Nauta et al., 2004）

４．研究成果

ADIS の面接の結果については，Last Observation Carried Forward を適用して分析を行った。治療終結時点では，３名が主たる不安障害の基準から外れることが示された（ITT = 25.00%, Com = 33.33%）。また，３ヶ月時点では，６名が主たる不安の問題が改善していることが示された（ITT = 50.00%, Com = 66.67%）。

次に，ADIS の重症度評定について検討を行った。時期（Pre, Post, 3-months）を要因とする分散分析の結果，主効果が有意であった（F (2, 22) = 5.74, p < .01）。Fig. 1 に示すように Bonferroni の方法による多重比較の結果，Pre と 3-months の間に有意な低減がみられた（p < .01）。

自己評定尺度については，混合モデルによる分析を採用した。その際，時期（Pre, Post, 3-months）を固定効果，対象者を変量効果として分析を行った。ITT 分析においては，SCAS（F (2, 17.17) = 1.72），DSRS（F (2, 18.37) = 1.60）においては有意な主効果はみられなかったが，CDI（F (2, 14.58) = 4.04, p < .05）においては時期の主効果が有意であった。この結果について，Bonferroni の方法による多重比較を行った結果，Pre と 3-months の間での差が有意傾向であった（p < .10）。同様の結果は完遂者分析においても認められた。

自己評定尺度と同様に，SCAS-P においても混合モデルによる分析を行った。その結果，ITT 分析において時期の主効果が有意であった（F (2, 18.71) = 8.00, p < .01）。Bonferroni の方法による多重比較を行った結果，Pre から Post にかけて有意な低減がみられ（p < .05），Pre と 3-months の間の差も有意であった（p < .01）。

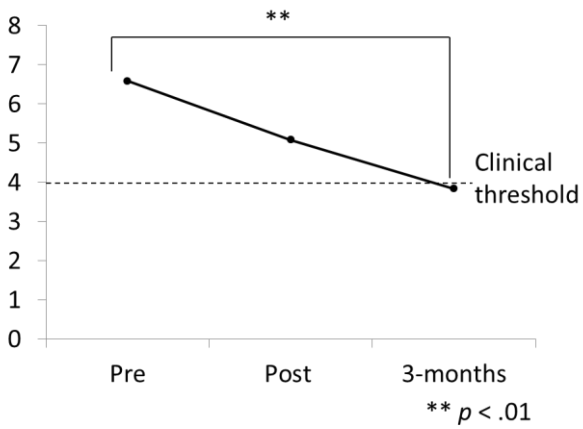

Fig. 1 Results of the Clinical Significance Ratings

本研究は，子ども本人に対するプログラムに加えて，親への積極的な治療構成要素を含む親子認知行動療法（CBT-PC）の効果を検討するものであった。本研究の結果，CBT-PC を完遂したもののうち，プログラム終結時点ではおよそ３分の１の子どもが主たる不安障害の基準から外れ，３ヶ月時点では半分以上の子どもが主たる不安の問題を克服していることが明らかとされた。また，ADIS の重症度評定において有意な低減がみられるとともに，３ヶ月時点では，参加者の平均で不安障害に当てはまる水準を下回ることが明らかにされた。欧米諸国と比して児童青年に対する CBT が普及しているとは言いがたい我が国の現状を踏まえると（石川，2009），本研究の成果は一定の臨床的有用性があるものと考えられる。今後はより頑健なデザインにおける効果研究を蓄積していくことが必要不可欠である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計２８件）

1. Ishikawa, S. (2012). Cognitive errors, anxiety, and depression in Japanese children and adolescents. International *Journal of Cognitive Therapy* (peer-reviewed journal), **5**, 38-49.
(ア) DOI: 10.1521/ijct.2012.5.1.38
2. Ishikawa, S., Motomura, N., Kawabata, Y., Tanaka, H., Shimotsu, S., Sato, Y., & Ollendick T. H. (2012). Cognitive behavioural therapy for Japanese children and adolescents with anxiety disorders: A pilot study. *Behavioural and Cognitive Psychotherapy* (peer-reviewed journal), **40**, 271-285.
(ア) DOI:10.1017/S1352465811000713
3. 石川信一・元村直靖（2012）．心理士による児童青年のうつ病性障害に対する認知行動療法の実施：３事例の報告　行動療法研究（査読有），**38**，203-213.
4. 石川信一・下津紗貴・下津咲絵・佐藤容子・井上祐紀（2012）．自閉症スペクトラム障害に併存する社交不安障害に対する認知行動療法　児童青年医学とその近接領域（査読有），**53**，11-24.
5. 石川信一・佐藤 寛・野村尚子・木谷村美香・河野順子・井上和臣・坂野雄二（2012）．　不登校児童生徒における不登校行動維持メカニズムに関する検討：不登校機能アセスメント尺度適用の試み　認知療法研究（査読有），**5**, 83-93.
6. Essau, C. A., Ishikawa, S., & Sasagawa, S. (2011). Early learning experience and adolescent anxiety: A cross-cultural comparison between Japan and England. *Journal of Child and Family Studies* (peer-reviewed journal), **20**, 196-204.
(ア) DOI: 10.1007/s10826-010-9404-5
7. Essau, C. A., Ishikawa, S., Sasagawa, S., Sato, H., Okajima, I., Otsui, K., Georgiou, G. A., O'Callaghan, J., & Michie, F. (2011). Anxiety symptoms among adolescents in Japan and England: Their relationship with self-construals and social support. *Depression and Anxiety* (peer-reviewed journal), **28**, 509-518.
(ア) DOI: 10.1002/da.20819
8. 石川信一・岩永三智子・山下文大・佐藤寛・佐藤正二（2010）．社会的スキル訓練による児童の抑うつ症状への長期的効果　教育心理学研究（査読有），**58**，372-384.

他２０件

〔学会発表〕（計２３件）

1. Ishikawa, S., Kikuta K., & Mitamura, T. Consistency of children's anxiety symptoms between self- and parent-reports: Moderator analysis of family CBT for children with anxiety disorders. The 46th Annual Convention of Behavioral and Cognitive Therapies, National Harbor, USA, November, 2012.
2. Essau, C., Ishikawa, S., & Sasagawa, S A Japanese form of social anxiety (Taijin kyofusho): Its frequency in two generations of the same family in Japan The 33rd STAR International Conference, Palma de Mallorca, Spain, July 2012.
3. Ishikawa, S., Shimotsu, S., Ono, T., Kikuta, K, Mitamura, T., Sasagawa, S., Shimotsu, S., Sato, Y., & Kondo-Ikemura, K. Anxiety

symptoms in children from children's and parents' point of views. The 44th Banff International Conferences on Behavioural Science, Banff, Canada, March, 2012.

4. Ishikawa, S., Motomura, N., Kawabata, Y., Tanaka, H., Shimotsu, S., & Sato, Y. Normative comparison of cognitive behavior therapy for children and adolescents with anxiety disorders. The 45th Annual Convention of Behavioral and Cognitive Therapies, Toronto, Canada, November, 2011.
5. Sasagawa, S., Ishikawa, S., Okajima, I., Sato, H., Otsui, K., & Essau, C. A. Child-parent correlates of Taijin Kyofusho symptoms in Japan. The 3rd Asian Cognitive Behavior Therapy Conference, Seoul, Korea, July, 2011.
6. Ishikawa, S., Shimotsu, S., & Sato Y. Cognitive behavior therapy for Japanese children with anxiety disorders. World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies (6th). Boston, USA, June 2010.

他１７件

〔図書〕（計５件）

1. Ishikawa, S., Sasagawa, S., & Essau, C.A. (2012). The prevalence and nature of child abuse and violence in Japan. A. Browne Miller (Ed.), Violence and abuse in society: Across time and nations. New York: Praeger-Greenwood Publishing Group (Total Pp. 391), Pp. 307-322.
2. 石川信一（2012）. こどもの不安障害　坂野雄二（編）60 のケースから学ぶ認知行動療法　北大路書房（総頁 323）, 210-214.
3. 石川信一（2011）．第 11 章　中核自己を見つけ，愛し，癒やす　第 12 章　愛のある言葉　第 13 章　他者からのよい意見　第 14 章　よい特性を認識し，受け容れる　Glenn R. Schiradi（著）　高山巌（監訳）　自尊心を育てるワークブック　金剛出版（総頁 228）　Pp.113-134.
4. 石川信一（2010）．児童の不安障害に対する認知行動療法　風間書房（総頁 275）.
5. 石川信一（2010）．児童期の治療　児童期の不安 : FRIENDS プログラム　不安・怒りのマネジメント・トレーニング　不安 : 児童期　内山喜久雄，大野　裕，久保木富房，坂野雄二，沢宮容子，富家直明（監訳）　認知行動療法辞典　日本評論社（総頁 492），Pp. 176-179, 180-184, 396-400, 400-403.

〔その他〕
ホームページ等
URL: http://ishinn.doshisha.ac.jp/

６．研究組織
(1)研究代表者
石川 信一（ISHIKAWA　SHIN-ICHI）
同志社大学・心理学部・准教授
研究者番号：90404392

(2)研究分担者
なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし　　（　　）

研究者番号：